

『農学 I 実力完成講座 過去問演習編 育種遺伝学』(KU03095)

訂正表

2020年05月26日現在

ページ	訂正箇所	訂正内容		掲載日
P. 24	[No. 28] の正答番号	誤	[No. 30] 正解 <u>1</u>	2020/05/26
		正	[No. 30] 正解 <u>2</u>	
P. 37	[No. 28] 肢1の解説	誤	1 妥当である。 そのとおり。	2020/05/26
		正	1 妥当でない。 種無しスイカは、コルヒチン処理で四倍体とした花の雌しべに、二倍体の花粉を受粉して、三倍体の種子を作り、それを生育・結実させたものである。三倍体であるため、種子が正常に発育せず、種無しとなる。	
P. 37	[No. 28] 肢2の解説	誤	2 妥当でない。 ハクランは細胞融合によって作られた品種である。	2020/05/26
		正	2 妥当である。 ハクサイとキャベツは、種が異なり、交雑しても、胚までは生成するが、その後退化して生育しない。しかし、胚を取り出して試験管内で培養すると、種間雑種として生育させることができる。ハクランは、このような胚救済培養法によって作られた品種である。	

※「掲載日」は、上掲訂正情報がLECホームページの『公務員 テキスト改訂・修正情報一覧』(<http://www.lec-jp.com/koumuin/info/teisei/>)に掲載された日付です。